

2025年度第2回 開志専門職大学 事業創造学部 教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時：2026年2月26日（木）15：00～16：30
2. 会 場：開志専門職大学 紫竹山キャンパス 7階会議室
(オンラインでの参加者は Teams にて参加)
3. 出席者：向正道委員長、~~荒井正幸委員~~、唐木宏一委員（オンライン参加）、~~武田修美委員~~、
田中豊委員（オンライン参加）、早川正茂委員、三ヶ月亘彦委員（五十音順）
欠席者：荒井正幸委員、武田修美委員（五十音順）
オブザーバー参加：星和樹先生、小川元也先生、明珍儀隆先生（オンライン参加）
事務局：阿部朋子 事業創造学部 学務課課長、今井泰子 学務課職員

4. 議 事：

【報告】

1. 2025年度 教育課程に関する報告
 - 1) 教育課程・・・(30分)
 - ・2026年度カリキュラム・授業関連検討事項
 - ・臨地実務実習状況・シンポジウム実施報告（2025年度）
 - 2) 学生状況（2025年度）・・・(15分)
 - 3) 就職内定状況報告（2025年度）・・・(15分)
 - 4) 学生募集状況（2025年度）・・・(20分)
 - ・2026年度生 オープンキャンパス・出願状況
 - ・Open Gate NIIGATA 2025 について
2. 質疑応答

5. 議 事：

【報告】

1. 2025年度 教育課程に関する報告
 - 1) 教育課程・・・(30分)
 - ・2026年度カリキュラム・授業関連検討事項資料2については、資料共有にて確認された。
資料3、資料4-1～3について、星先生から説明された。
唐木委員：科目整理については、然るべき良い変更だと感じている。演習科目から講義科目への変更が報告されたが、今まで演習要素として学修していた部分については何か対応をしていくのか。
→ 向委員長：ソーシャルデザインについてはⅠ～Ⅲまであり、積み重ねて学修をしていく設計の科目になっている。Ⅰは概要を学んでいく内容となっており、Ⅱが演習、Ⅲが実習と段階的に学ぶカリキュラムとなっている。財務諸表分析については、これまでも演習部分はあったが、大半が講義形式となるため、同様の形で進めていく予定にして

いる。

田中委員：自分自身が学生時代に簿記・財務諸表分析を履修していなかったため、社会人になってからあらためてお金と時間をかけて勉強をした経験がある。会社を運営していくにあたってとても重要なことであるということにあとになって気づいたので、起業家を目指す学生が多い学校ということでもあるので、その重要性を早めに学生へ伝えて欲しい。

→ 明珍先生より、会計系科目の体系図について説明された。

早川委員：財務諸表を見ながら実際に業務を行っているが、非常に難しいところだと感じている。日商簿記2級を取得するような勉強はしているのか。

→ 明珍先生：2級の内容も授業内では触れているが、実際に資格取得を目指すところまで授業時間内でカバーすることは難しい。希望者には授業外で資格取得に向けた講座も開講している。

・臨地実務実習状況・シンポジウム実施報告（2025年度）

資料5～資料7-2について、向委員長より説明された。

三ヶ月委員：実際にシンポジウムに登壇をし、アンケートにもコメントがあったが、「時間が足りなかった」ということは感じた。その場で質問をしたい方もいたように感じたが、淡々とプログラムが進んでいったので、次回以降は相互に意見交換ができる場になると良いと思う。もしくは、事前に質問を募集してそれに回答をする形式や、情報学部との合同開催をすることで新しい情報を得る場になり参加者が増えることにも繋がると感じる。

早川委員：企業内実習Ⅲで受け入れを行い、三条市立大学との合同実習を実施。また、途中からはアニメ・マンガ学部の学生の受け入れも行った。可能であれば、学部ごとではなく、大学としての実習ができれば融合しておもしろいアイデアの創出にもつながるのではないかと思う一方、実習の時期の調整などの問題点もあるとも感じている。実現すれば、新潟でおもしろいことをやっているところがある、という評判にも繋がると思う。

唐木委員：シンポジウムは今後、定例化してくものなのか。

→ 向委員長：定例化していく予定ではある。

唐木委員：共有された資料の中に「参加者限り」というものがあったが、可能な限り、参加企業へレポートの配布があっても良いと思った。

→ 向委員長：検討する。

2) 学生状況（2025年度）・・・（15分）

資料8について、明珍先生・阿部学務課長より説明された。

意見・質問等はなし。

3) 就職内定状況報告（2025年度）・・・（15分）

資料9について、向委員長・阿部学務課長より説明された。

田中委員：起業をした学生の活躍がとてもめざましいものと感じている。ビジネスアイデ

アコンテストでも優秀な成績をおさめていることも見ており、今後にもさらに期待が持てるものと思っている。

→ 向委員長：今後もそれに続くような学生を輩出するために教員で考えながら進めている状況。現時点でも、個人事業主の学生はいるため、引き続き指導していきたい。

→ 小川先生：起業の種を育てていくために「開志発ベンチャー」を進めているが、新4年生で1名起業済み、新3年生が個人事業主として動き出している。新2年生もアプリの開発を進めており、形式は未定だが進行中の状況。年に1名程度は「開志発ベンチャー」が誕生するようなペースで進行している状況。

4) 学生募集状況 (2025年度)・・・(20分)

・2026年度生 オープンキャンパス・出願状況

資料10について、小川先生より説明された。

・Open Gate NIIGATA 2025について

資料11について、小川先生より説明された。

5) その他

・プロジェクト取り組みについて

資料12について、向委員長より説明された。

2.質疑応答

●三ヶ月委員：学生数も定員充足に到達、起業家の輩出なども進んでおりとても素晴らしいと感じ、起業家育成の種まきの努力の結果が徐々に、学校として認知されることに順調に繋がっていると感じている。その中で、まだ開学6年目というところで、試行錯誤しながらいろいろな変化があり、決まったものを決まった通りにやるのではなく、柔軟性を持って外部の意見も取り入れていることで良い意味で変化が生まれていると思う。

今後もこのような場を通して、力添えをしていきたいと思っている。

●早川委員：就職活動などで大学生と話す機会があるが、三条市にいながら、開志専門職大学の名前を聞くことも多く、知名度が上がっていると実感している。実習の受け入れを通して情報を発信していくこともり、また、起業家を輩出していくことで、新潟を盛り上げ大学の知名度をさらに上げていくことに繋がっていくと感じる。地元企業に就職をしている学生も多くいることから、卒業して終わりではなく、その後も大学と卒業生の繋がりを継続して行ってほしいと思う。今後もさらなる大学の発展に協力していきたいとおもっている。

●田中委員：いろいろな情報をお聞きして、大きく前進していることが分かった。日本の起業家教育をリードする各務学長がいらっしゃることで、いろいろな場面で起業家教育の接点を持つことがあり、開志専門職大学の名前を聞く機会があると感じている。新潟で行っているビジネスアイデアコンテストも非常に影響力のあることだと感じるので、これを継続してブランド化していくと良いと思う。

●唐木委員：意欲的に良い部分を積極的に伸ばす活動をしていると報告を聞いて感じた。

定員充足なども努力の成果と感じている。身近にもある問題としては、留学生のビザの件がある。経営管理ビザの取得の見通しがあった学生であっても社会情勢に影響されてビザの変更を余儀なくされる状況が発生している。非常に難しい問題も含まれているが、学生のケアができるようにお互いに体制を取っていきたいと感じた。

●荒井委員：メールにて

①企業研修が充実していることを、学生により PR し、ビジネスで少しでも即戦力になりたいのなら本学である、と印象付けてはいかがでしょうか。

②多くの企業での研修は、必ず学生の成長に繋がると思います。そこで、企業からの学生へのフィードバック（厳しいところも含めて。〇〇が足りないなど）も充実されると良いかと思いました。

6. 資料

【資料 1】 教育課程連携協議会 構成員名簿

【資料 2】 教育課程 ポリシー等

【資料 3】 カリキュラム改定について

【資料 4】 学則別表 2、3、カリキュラムマップ、読み替え表

【資料 5】 2025 年度 実習別受入先企業

【資料 6】 臨地実務実習 経年実習先一覧

【資料 7】 臨地実務実習シンポジウム報告

【資料 8】 2025 年学生状況表

【資料 9】 2025 年卒進路一覧、2026 年卒内定状況

【資料 10】 2026 年度入学生 オープンキャンパス・募集状況

【資料 11】 Open Gate NIIGATA 2025 報告

【資料 12】 2025 年度年間プロジェクト（社会連携）

以上